

令和6年8月30日  
航空局 空港計画課  
空港技術課

## 空港脱炭素化推進計画の認定式を開催します ～岡山・岡南の2空港へ認定証を手交～

国土交通省は、空港脱炭素化推進計画について、申請のありました岡山空港、岡南飛行場の2空港の計画を認定します。

本認定に際し、認定証を各空港の管理者に直接交付する認定式を令和6年9月6日に行います。

航空分野の脱炭素化を図るため、令和4年6月に航空法・空港法等を改正し、各空港の管理者が空港と一体となって、具体的な目標や取組内容等を定めた空港脱炭素化推進計画を作成する制度を創設しました。

今般、岡山空港、岡南飛行場の2空港から申請のあった空港脱炭素化推進計画について認定を行い、あわせて、下記の通り認定式を行います。

今後、照明のLED化、車両のEV化および太陽光発電設備等の再エネ導入を最大限実施することにより、岡山空港及び岡南飛行場の脱炭素化を推進します。

### 【空港脱炭素化推進計画策定状況】

[https://www.mlit.go.jp/koku/koku\\_tk9\\_000085.html](https://www.mlit.go.jp/koku/koku_tk9_000085.html)

### 【認定式】

1. 日時 令和6年9月6日(金)16時00分～16時10分
2. 場所 国土交通省特別会議室  
(東京都千代田区霞が関2-1-3 中央合同庁舎3号館8階)
3. 取材等 ●報道関係者に限り取材が可能です。希望される方は、令和6年9月5日(木)17時までに、氏名・所属先・連絡先を下記URLよりご連絡ください。  
・取材申込連絡先(Microsoft Formsのアンケートフォーム)  
<https://forms.office.com/r/hGpbc6nCA9>  
●当日は15時50分までに中央合同庁舎3号館8階エレベーターホールにお集まりください。

### 問い合わせ先

航空局航空ネットワーク部空港計画課 市野、笠野、小谷  
TEL:03-5253-8111(内線 51609、49218、49239) 直通:03-5253-8717  
航空局航空ネットワーク部空港技術課 大竹、土岐  
TEL:03-5253-8111(内線 49226、49538) 直通:03-5253-8717

# 岡山桃太郎空港脱炭素化推進計画（概要）

## 1. 基本的な事項

○空港の特徴

- 標高200～300mの丘陵台地にある空港であり、3,000mの滑走路を有し、年間着陸回数5,977回、旅客数約150万人（令和元（2019）年度）となっている。

○空港の脱炭素化に向けた方針

- 空港関係事業者が一体となって、照明や航空灯火のLED化、車両のEV化、太陽光発電等の再生可能エネルギー導入などを進めることにより、空港の脱炭素化を推進する。

## 2. 温室効果ガスの排出量

区分		温室ガス排出量 [t/年]	
		2013年	現状(2019年)
空港施設		4,759	3,345
空港車両		281	269
空港施設・車両 計		5,039	3,614
(参考)	航空機	10,548	11,018
	空港アクセス	2,676	2,795

## 3. 温室効果ガスの削減目標

2030年度目標	2013年度比 46%削減
2050年度目標	カーボンニュートラル

## 4. 主な取組

2030年：LED化およびEV車両の導入を進めるとともに、太陽光発電設備の導入に取り組む。

2050年：引き続き、EV車両の導入を進めるとともに、太陽光発電設備の更なる活用に取り組む。



### その他の取組

地域連携・レジリエンス：災害時の蓄電池等の活用  
意識醸成・啓発活動：ポスター掲示等

# 岡南飛行場脱炭素化推進計画（概要）

## 1. 基本的な事項

### ○飛行場の特徴

- ・ 標高0mの海に面した飛行場であり、定期航路はなく、不定期航空輸送（貸切輸送・遊覧飛行）や航空機使用事業、警察・消防の航空隊基地として利用されており、年間着陸回数は6,541回（令和元（2019）年度）である。

### ○飛行場の脱炭素化に向けた方針

- ・ 飛行場関係事業者が一体となって、照明や航空灯火のLED化、車両のEV化、太陽光発電等の再生可能エネルギー導入を進めることにより、飛行場の脱炭素化を推進する。

## 2. 温室効果ガスの排出量

区分	温室ガス排出量 [t/年]		
	2013年度	現状(2019年度)	
空港施設	462	379	
空港車両	20	28	
空港施設・車両 計	482	404	
(参考)	航空機	8	11
	空港アクセス	155	155

## 3. 温室効果ガスの削減目標

2030年度目標	2013年度比 46%削減
2050年度目標	カーボンニュートラル

## 4. 主な取組

2030年：LED化およびEV車両の導入を進めるとともに、太陽光発電設備の導入に取り組む。

2050年：引き続き、EV車両の導入を進めるとともに、太陽光発電設備の更なる活用に取り組む。



### その他の取組

地域連携・レジリエンス：災害時の蓄電池等の活用  
意識醸成・啓発活動：ポスター掲示等